

納得感のあるジョブローテーション施策に創りあげよう! ①

5月7日付 施策を担う組合員の想いと今後の決意

5月7日付で、ジョブローテーション施策で盛岡駅に異動しました。

異動の打診をされた以降、数回の面談を区長と行いましたが、いずれも私から申し出たものであり「社員から話しに来なければ淡々と進める」とも話されました。自分の描いたキャリアや希望が通らなかった理由や、なぜ駅営業なのかについても「支社が決定」「全体を見て」「総合的に」など具体的な内容が示されず、納得感が高まるどころか会社として社員に向き合っていないと感じました。私は母親の介護についての不安を面談時から訴えていました。それから約半年間、まったく状況を聞かれることもなく異動が決められたことに、丁寧さや配慮が無く一方的な施策運用であると感じました。そのような不安を面談でも主張し、団体交渉でも議論していただきました。

労使交渉で確認してきた正しい施策の運用に向けて、多くの仲間とたたかいを創りだしてきました。この施策は全員に関わる施策です。同じような想いをする仲間を二度と出さない為に、今後も検証と議論を強化し、組合員と家族の幸福を実現できる施策を創りだしていきます。新たな職場と仕事に不安もありますが、仕事面でも人間的にも信頼されるよう頑張っていきます。

今回のジョブローテーションは、労使間で確認した内容や、会社説明と異なり、まったく希望していない職種、職場であり、このようなやり方は納得感も勤務意欲もなくなり不安を通り越して絶望に近い気持ちになりました。

本来ならコミュニケーションを管理者からとり、打診をして納得、決意させてから事前発令とならなければなりません。想像してみてください。18年乗務員をしていた人間が経験も知識も畑違いの職場に決定前提で打診をされれば不安しかなく、希望も持てません。ましてや家族の生活も大きく変わる内容なのに一方的に決まっているのはおかしいことです。私の場合は特に小さい子供がいて、妻も通勤しているので育児の配慮は働き方改革の観点からも必要なことです。そのことを強く訴えましたが、支社の回答はすべて「総合的な判断です」の一点張りです。どうしたら納得できるのか?どんなに考えても納得できないし、前向きにもなれませんでした。しかし、相談できる環境が私にはあり助かりました。解決はできないけど、一人で悩むことなく、常に自分の事と捉えて一緒にたたかってくれる仲間の存在はとても大きかったです。

今回の問題点は面談で希望した内容と違うこと、違うのならなぜそうなのかという説明が無いこと、管理者のコミュニケーションの中身、家族の配慮が無い、通勤手当による所得税増加などキリがありません。正直、心の奥底では納得できていません。ジョブを担うと決意してから転勤ではなく、転勤してから担うことになっているので心のバランスがおかしい感じです。これが今現在の心境です。それでも仕事で信頼され、相談される人間になろうと思っています。そして、担う組合員が納得感を実感できる施策に創り出すために自分の経験を発信していきます。